

## AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03) 試験ガイド

### はじめに

AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03) 試験は、ソリューションアーキテクトの役割を担う個人を対象としています。この試験では、AWS Well-Architected フレームワークに基づいてソリューションを設計する受験者の能力を検証します。

また、次のタスクについての受験者の能力も検証します。

- 現在のビジネス要件と将来予測されるニーズを満たすように AWS のサービスを組み込んだソリューションを設計する。
- 安全性、耐障害性、高パフォーマンス、コスト最適化を実現したアーキテクチャを設計する。
- 既存のソリューションをレビューし、改善点を判断する。

### 受験対象者について

受験対象者には、AWS のサービスを使用するクラウドソリューション設計の実務経験が 1 年以上必要です。

試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリスト、試験対象の AWS サービスと機能のリスト、および試験対象外の AWS サービスと機能のリストについては、付録を参照してください。

### 試験内容

#### 解答タイプ

試験には次の 2 種類の設問があります。

- **択一選択問題:** 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢 (不正解) が 3 つ提示される。
- **複数選択問題:** 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある。

設問の記述に最もよく当てはまるもの、または正解となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識や技術が不十分な受験者が選択してしまいそうな、設問内容と一致するもっともらしい解答になっています。

未解答の設問は不正解とみなされます。推測による解答にペナルティはありません。試験には、スコアに影響する設問が 50 問含まれています。

### 採点対象外の設問

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。AWS では、こういった採点対象外の設問での成績情報を収集し、今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわからないようになっています。

### 試験の結果

**AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03)** 試験は、合否判定方式です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100～1,000 の換算スコアとして示されます。合格スコアは 720 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するためにスケールスコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。試験には補整スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意な部分と弱点を示す全般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。

## 試験内容の概要

この試験ガイドには、セクションに設定された重み、コンテンツドメイン、タスクステートメントについての説明が含まれています。本ガイドは、試験内容の包括的なリストを提供するものではありません。ただし、各タスクステートメントの追加情報を使って、試験の準備に役立てることができます。

本試験のコンテンツドメインと重み設定は以下のとおりです。

- 第 1 分野: セキュアなアーキテクチャの設計 (採点対象コンテンツの 30%)
- 第 2 分野: 弾力性に優れたアーキテクチャの設計 (採点対象コンテンツの 26%)
- 第 3 分野: 高パフォーマンスなアーキテクチャの設計 (採点対象コンテンツの 24%)
- 第 4 分野: コストを最適化したアーキテクチャの設計 (採点対象コンテンツの 20%)

## 第 1 分野: セキュアなアーキテクチャの設計

タスクステートメント 1.1: AWS リソースへのセキュアなアクセスを設計する。

対象知識:

- 複数のアカウントにまたがるアクセス制御と管理
- AWS フェデレーテッドアクセスとアイデンティティサービス (AWS Identity and Access Management [IAM]、AWS IAM Identity Center [AWS Single Sign-On] など)
- AWS グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティーゾーン、AWS リージョンなど)
- AWS セキュリティのベストプラクティス (最小権限の原則など)
- AWS 責任共有モデル

対象スキル:

- AWS セキュリティのベストプラクティスを IAM ユーザーとルートユーザーに適用する (多要素認証 (MFA) など)。
- IAM ユーザー、グループ、ロール、ポリシーを含む柔軟な認証モデルを設計する。
- ロールベースのアクセスコントロール戦略 (AWS Security Token Service [AWS STS]、ロールスイッチング、クロスアカウントアクセスなど) を設計する。

- 複数の **AWS アカウント (AWS Control Tower、サービスコントロールポリシー [SCP] など)** のセキュリティ戦略を設計する。
- **AWS のサービスに対するリソースポリシーの適切な使用を判断する。**
- **IAM ロールを使用して Directory Service をフェデレートする場面を判断する。**

タスクステートメント 1.2: セキュアなワークロードとアプリケーションを設計する。

対象知識:

- アプリケーション設定と認証情報のセキュリティ
- **AWS サービスエンドポイント**
- **AWS でポート、プロトコル、ネットワークトラフィックを制御**
- **セキュアなアプリケーションアクセス**
- **セキュリティサービスの適切なユースケース (Amazon Cognito、Amazon GuardDuty、Amazon Macie など)**
- **AWS 外部の脅威ベクトル (DDoS、SQL インジェクションなど)**

対象スキル:

- **セキュリティコンポーネント (セキュリティグループ、ルートテーブル、ネットワーク ACL、NAT ゲートウェイなど) を使用した VPC アーキテクチャの設計**
- **ネットワークセグメンテーション戦略の決定 (パブリックサブネットとプライベートサブネットの使用など)**
- **AWS のサービスとの統合によるアプリケーションの保護 (AWS Shield、AWS WAF、IAM Identity Center、AWS Secrets Manager など)**
- **AWS クラウドと外部ネットワーク接続の保護 (VPN、AWS Direct Connect など)**

タスクステートメント 1.3: 適切なデータセキュリティ管理を判断する。

対象知識:

- **データアクセスとガバナンス**
- **データ復旧**
- **データ保持と分類**
- **暗号化と適切なキー管理**

対象スキル:

- **コンプライアンス要件を満たすために AWS テクノロジーを調整する。**

- 保管中のデータを暗号化する (AWS Key Management Service [AWS KMS] など)。
- 転送中のデータを暗号化する (TLS を使用した AWS Certificate Manager [ACM] など)。
- 暗号化キーにアクセスポリシーを実装する。
- データバックアップとレプリケーションを実装する。
- データアクセス、ライフサイクル、保護に関するポリシーを実装する。
- 暗号化キーのローテーションと証明書を更新する。

## 第 2 分野: 弾力性に優れたアーキテクチャの設計

タスクステートメント 2.1: スケーラブルで疎結合なアーキテクチャを設計する。

対象知識:

- API の作成と管理 (Amazon API Gateway、REST API など)
- AWS マネージドサービスの適切なユースケース (AWS Transfer Family、Amazon Simple Queue Service [Amazon SQS]、Secrets Manager など)
- キャッシュ戦略
- マイクロサービスの設計原則 (ステートレスワークロードとステートフルワークロードの比較など)
- イベント駆動型アーキテクチャ
- 垂直スケーリングと水平スケーリング
- エッジアクセラレーター (コンテンツ配信ネットワーク [CDN] など) を適切に使用する方法
- アプリケーションをコンテナに移行する方法
- ロードバランシングの概念 (Application Load Balancer など)
- 多層アーキテクチャ
- キューイングとメッセージングの概念 (パブリッシュ/サブスクライブなど)
- サーバーレステクノロジーとパターン (AWS Fargate、AWS Lambda など)
- ストレージの種類とその特性 (オブジェクト、ファイル、ブロックなど)
- コンテナのオーケストレーション (Amazon Elastic Container Service [Amazon ECS]、Amazon Elastic Kubernetes Service [Amazon EKS] など)
- リードレプリカを使用するタイミング
- ワークフローオーケストレーション (AWS Step Functions など)

対象スキル:

- 要件に基づいてイベント駆動型、マイクロサービス、多層アーキテクチャを設計する。
- アーキテクチャ設計で使用するコンポーネントのスケーリング戦略を決定する。
- 要件に基づいて、疎結合を実現するために必要な **AWS** のサービスを決定する。
- コンテナを使用する場面を判断する。
- サーバーレステクノロジーとパターンを使用する場面を判断する。
- 要件に基づいて適切なコンピューティング、ストレージ、ネットワーク、データベーステクノロジーを推奨する。
- ワークロードに特化した **AWS** のサービスを使用する。

タスクステートメント 2.2: 高可用性、フォールトトレラントなアーキテクチャを設計する。

対象知識:

- **AWS** グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティゾーン、**AWS** リージョン、**Amazon Route 53** など)
- **AWS** マネージドサービスの適切なユースケース (**Amazon Comprehend**、**Amazon Polly** など)
- ネットワークの基本概念 (ルートテーブルなど)
- 災害対策 (**DR**) 戦略 (バックアップと復元、パイロットライト、ウォームスタンバイ、アクティブ/アクティブフェイルオーバー、目標復旧時点 [**RPO**]、目標復旧時間 [**RTO**] など)
- 分散型設計パターン
- フェイルオーバー戦略
- イミュータブルインフラストラクチャ
- ロードバランシングの概念 (**Application Load Balancer** など)
- プロキシの概念 (**Amazon RDS** プロキシなど)
- **Service Quotas** とスロットリング (スタンバイ環境でワークロードの **Service Quotas** を構成する方法など)
- ストレージオプションと特性 (耐久性、レプリケーションなど)
- ワークロードの可視性 (**AWS X-Ray** など)

対象スキル:

- インフラストラクチャの整合性を確保するオートメーション戦略を決定する。
- **AWS** リージョンまたはアベイラビリティゾーン全体にわたって、可用性が高く耐障害性のあるアーキテクチャを提供するのに必要な **AWS** のサービスを決定する。
- ビジネス要件に基づいてメトリクスを特定し、可用性の高いソリューションを提供する。
- 単一障害点を軽減する設計を実装する。
- データの耐久性と可用性を確保するための戦略 (バックアップなど) を実装する。
- ビジネス要件を満たす適切な **DR** 戦略を選択する。
- レガシーアプリケーションやクラウドに最適化されていないアプリケーション (アプリケーションの変更が不可能な場合など) の信頼性を向上させるために **AWS** サービスを利用する。
- ワークロードに特化した **AWS** のサービスを使用する。

### 第3分野: 高パフォーマンスなアーキテクチャの設計

タスクステートメント 3.1: 高パフォーマンスでスケーラブルなストレージソリューションを選択する。

対象知識:

- ビジネス要件を満たすハイブリッドストレージソリューション
- ストレージサービスの適切なユースケース (Amazon S3、Amazon Elastic File System [Amazon EFS]、Amazon Elastic Block Store [Amazon EBS] など)
- ストレージの種類とその特性 (オブジェクト、ファイル、ブロックなど)

対象スキル:

- パフォーマンス要件を満たすストレージサービスと設定を決定する。
- 将来のニーズに合わせてスケールできるストレージサービスを特定する。

タスクステートメント **3.2:** 高パフォーマンスで伸縮性があるコンピューティングソリューションを設計する。

対象知識:

- **AWS コンピューティングサービスの適切なユースケース (AWS Batch、Amazon EMR、Fargate など)**
- **AWS グローバルインフラストラクチャとエッジサービスによって提供される分散コンピューティングの概念**
- **キューイングとメッセージングの概念 (パブリッシュ/サブスクライブなど)**
- **適切なユースケースによるスケーラビリティ機能 (Amazon EC2 Auto Scaling、AWS Auto Scaling など)**
- **サーバーレステクノロジーとパターン (Lambda、Fargate など)**
- **コンテナのオーケストレーション (Amazon ECS、Amazon EKS など)**

対象スキル:

- **コンポーネントを個別にスケールできるようにワークロードを疎結合にする。**
- **スケーリングアクションを実行するメトリクスと条件を特定する。**
- **ビジネス要件を満たす適切なコンピューティングオプションと機能 (EC2 インスタンスタイプなど) を選択する**
- **ビジネス要件を満たす適切なリソースタイプとサイズ (Lambda メモリの容量など) を選択する。**

タスクステートメント **3.3:** 高パフォーマンスなデータベースソリューションを選択する。

対象知識:

- **AWS グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティーゾーン、AWS リージョンなど)**
- **キャッシュ戦略とサービス (Amazon ElastiCache など)**
- **データアクセスパターン (読み取り集中型と書き込み集中型など)**
- **データベースキャパシティープランニング (キャパシティユニット、インスタンスタイプ、プロビジョンド IOPS など)**
- **データベース接続とプロキシ**
- **データベースエンジンの適切なユースケース (異種間移行、同種間移行など)**
- **データベースレプリケーション (リードレプリカなど)**



- データベースタイプとサービス (サーバーレス、リレーショナル、非リレーショナル、インメモリなど)

対象スキル:

- ビジネス要件を満たすようにリードレプリカを設定する。
- データベースアーキテクチャを設計する。
- 適切なデータベースエンジンを決定する (MySQL と PostgreSQL の比較など)。
- 適切なデータベースタイプを決定する (Amazon Aurora、Amazon DynamoDB など)。
- ビジネス要件に合わせてキャッシングを統合する。

タスクステートメント **3.4:** 高パフォーマンスでスケーラブルなネットワークアーキテクチャを選択する。

対象知識:

- エッジネットワークサービスの適切なユースケース (Amazon CloudFront、AWS Global Accelerator など)
- ネットワークアーキテクチャの設計方法 (サブネット層、ルーティング、IP アドレス指定など)
- ロードバランシングの概念 (Application Load Balancer など)
- ネットワーク接続オプション (AWS VPN、Direct Connect、AWS PrivateLink など)

対象スキル:

- さまざまなアーキテクチャ (グローバル、ハイブリッド、多層など) のネットワークトポロジを作成する。
- 将来のニーズに合わせてスケールできるネットワーク設定を決定する。
- ビジネス要件を満たす適切なリソース配置を決定する。
- 適切なロードバランシング戦略を選択する。

タスクステートメント **3.5:** 高パフォーマンスなデータ取り込みと変換のソリューションを選択する。

対象知識:

- データ分析および視覚化サービスの適切なユースケース (Amazon Athena、AWS Lake Formation、Amazon QuickSight など)
- データ取り込みパターン (頻度など)

- データ転送サービスの適切なユースケース (AWS DataSync、AWS Storage Gateway など)
- データ変換サービスの適切なユースケース (AWS Glue など)
- 取り込みアクセスポイントへのセキュアなアクセス
- ビジネス要件に必要なサイズと速度
- ストリーミングデータサービスの適切なユースケース (Amazon Kinesis など)

対象スキル:

- データレイクを構築および保護する。
- データストリーミングアーキテクチャを設計する。
- データ転送ソリューションを設計する。
- 可視化戦略を実装する。
- データ処理に適したコンピューティングオプション (Amazon EMR など) を選択する。
- 取り込みに適した設定を選択する。
- 形式間でデータを変換する (.csv から .parquet など)。

## 第 4 分野: コストを最適化したアーキテクチャの設計

タスクステートメント 4.1: コストを最適化したストレージソリューションを設計する。

対象知識:

- アクセスオプション (リクエスト支払いのオブジェクトストレージを持つ S3 バケットなど)
- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (AWS Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- AWS ストレージサービスの適切なユースケース (Amazon FSx、Amazon EFS、Amazon S3、Amazon EBS など)
- バックアップ戦略
- ブロックストレージオプション (ハードディスクドライブ [HDD] ボリュームタイプ、ソリッドステートドライブ [SSD] ボリュームタイプなど)
- データライフサイクル

- ハイブリッドストレージオプション (DataSync、Transfer Family、Storage Gateway など)
- ストレージアクセスパターン
- ストレージ階層化 (オブジェクトストレージのコールド階層化など)
- ストレージの種類とその特性 (オブジェクト、ファイル、ブロックなど)

対象スキル:

- 適切なストレージ戦略を設計する (Amazon S3 へのバッチアップロードと個別のアップロードとの比較など)。
- ワークロードに適したストレージサイズを決定する。
- ワークロードのデータを AWS ストレージに転送する際に最もコストが低い方法を判断する。
- ストレージのオートスケーリングが必要な場面を判断する。
- S3 オブジェクトのライフサイクルを管理する。
- 適切なバックアップとアーカイブソリューションを選択する。
- ストレージサービスへのデータ移行に適したサービスを選択する。
- 適切なストレージ階層を選択する。
- ストレージに適切なデータライフサイクルを選択する。
- ワークロードに応じて最も費用対効果の高いストレージサービスを選択する。

タスクステートメント 4.2: コストを最適化したコンピューティングソリューションを設計する。

対象知識:

- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- AWS グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティゾーン、AWS リージョンなど)
- AWS 購入オプション (スポットインスタンス、リザーブドインスタンス、Savings Plans など)
- 分散コンピューティング戦略 (エッジ処理など)
- ハイブリッドコンピューティングオプション (AWS Outposts、AWS Snowball Edge など)

- インスタンスタイプ、ファミリー、サイズ (メモリ最適化、コンピューティング最適化、仮想化など)
- コンピューティング使用率の最適化 (コンテナ、サーバーレスコンピューティング、マイクロサービスなど)
- スケーリング戦略 (オートスケーリング、休止状態など)

対象スキル:

- 適切なロードバランシング戦略を判断する (Application Load Balancer [レイヤー 7]、Network Load Balancer [レイヤー 4]、Gateway Load Balancer の比較など)。
- 伸縮性のあるワークロードのための適切なスケーリング方法と戦略を決定する (水平と垂直の比較、EC2 の休止状態など)。
- 費用対効果の高い AWS コンピューティングサービスをユースケースに応じて決定する (Lambda、Amazon EC2、Fargate など)。
- さまざまなクラスのワークロード (本番ワークロード、非本番ワークロードなど) に必要な可用性を判断する。
- ワークロードに適したインスタンスファミリーを選択する。
- ワークロードに適したインスタンスサイズを選択する

タスクステートメント 4.3: コストを最適化したデータベースソリューションを設計する。

対象知識:

- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- キャッシュ戦略
- データ保持ポリシー
- データベースキャパシティープランニング (キャパシティユニットなど)
- データベース接続とプロキシ
- データベースエンジンの適切なユースケース (異種間移行、同種間移行など)
- データベースレプリケーション (リードレプリカなど)
- データベースタイプとサービス (リレーショナルと非リレーショナル、Aurora、DynamoDB の比較など)

対象スキル:

- 適切なバックアップポリシーと保持ポリシー (スナップショットの頻度など) を設計する。
- 適切なデータベースエンジンを決定する (MySQL と PostgreSQL の比較 など)。
- 費用対効果の高い AWS データベースサービスをユースケースに応じて決定する (DynamoDB と Amazon RDS、サーバーレスとの比較など)。
- 費用対効果の高い AWS データベースタイプ (時系列形式、列指向形式など) を決定する。
- 異なるデータベーススキーマまたは、異なるデータベースエンジンに移行する。

タスクステートメント 4.4: コストを最適化したネットワークアーキテクチャを設計する。

対象知識:

- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求 など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- ロードバランシングの概念 (Application Load Balancer など)
- NAT ゲートウェイ (NAT インスタンスと NAT ゲートウェイのコスト比較 など)
- ネットワーク接続 (プライベート回線、専用回線、VPN など)
- ネットワークルーティング、トポロジ、ピアリング (AWS Transit Gateway、VPC ピアリングなど)
- ネットワークサービスの適切なユースケース (DNS など)

対象スキル:

- 適切な NAT ゲートウェイタイプ (1 つの共有 NAT ゲートウェイと各アベイラビリティゾーンでの NAT ゲートウェイの比較など) を設定する。
- 適切なネットワーク接続を設定する (Direct Connect、VPN、インターネットの比較など)。
- ネットワーク転送コストを最小限に抑えるために適切なネットワークルートを設定する (リージョン間、アベイラビリティゾーン間、プライベートからパブリック、Global Accelerator、VPC エンドポイントなど)。

- コンテンツ配信ネットワーク (CDN) とエッジキャッシュに対する戦略的ニーズを判断する。
- 既存のワークロードをレビューしてネットワークを最適化する。
- 適切なスロットリング戦略を選択する。
- ネットワークデバイスに適切な帯域幅割り当てを選択する (単一の VPN と複数の VPN の比較、Direct Connect の速度など)。

## 付録

### 試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念

以下は、試験に出題される可能性のあるテクノロジーと概念のリストです。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。このリストにおける項目の掲載順序や配置は、その項目の相対的な重みや試験における重要性を示すものではありません。

- コンピューティング
- コスト管理
- データベース
- 災害対策
- 高パフォーマンス
- マネジメントとガバナンス
- マイクロサービスとコンポーネントの配信
- 移行とデータ転送
- ネットワーク、接続、コンテンツ配信
- 回復性
- セキュリティ
- サーバーレスでイベント駆動型の設計原則
- ストレージ

### 範囲内の **AWS** のサービスと機能

以下に、試験範囲の **AWS** のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。各 **AWS** のサービスは、サービスの主な機能に応じたカテゴリに分けられています。

分析:

- Amazon Athena
- AWS Data Exchange
- AWS Data Pipeline
- Amazon EMR
- AWS Glue
- Amazon Kinesis
- AWS Lake Formation

- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK)
- Amazon OpenSearch Service
- Amazon QuickSight
- Amazon Redshift

#### アプリケーション統合:

- Amazon AppFlow
- AWS AppSync
- Amazon EventBridge
- Amazon MQ
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
- Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
- AWS Step Functions

#### AWS コスト管理:

- AWS Budgets
- AWS Cost and Usage Report
- AWS Cost Explorer
- Savings Plans

#### コンピューティング:

- AWS Batch
- Amazon EC2
- Amazon EC2 Auto Scaling
- AWS Elastic Beanstalk
- AWS Outposts
- AWS Serverless Application Repository
- VMware Cloud on AWS
- AWS Wavelength

#### コンテナ:

- Amazon ECS Anywhere
- Amazon EKS Anywhere
- Amazon EKS Distro
- Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR)



- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)
- Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)

#### データベース:

- Amazon Aurora
- Amazon Aurora Serverless
- Amazon DocumentDB (MongoDB 互換)
- Amazon DynamoDB
- Amazon ElastiCache
- Amazon Keyspaces (Apache Cassandra 向け)
- Amazon Neptune
- Amazon Quantum Ledger Database (Amazon QLDB)
- Amazon RDS
- Amazon Redshift

#### デベロッパーツール:

- AWS X-Ray

#### フロントエンドのウェブとモバイル:

- AWS Amplify
- Amazon API Gateway
- AWS Device Farm
- Amazon Pinpoint

#### 機械学習:

- Amazon Comprehend
- Amazon Forecast
- Amazon Fraud Detector
- Amazon Kendra
- Amazon Lex
- Amazon Polly
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker
- Amazon Textract
- Amazon Transcribe

- Amazon Translate

#### マネジメントとガバナンス:

- AWS Auto Scaling
- AWS CloudFormation
- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- AWS コマンドラインインターフェイス (AWS CLI)
- AWS Compute Optimizer
- AWS Config
- AWS Control Tower
- AWS Health Dashboard
- AWS License Manager
- Amazon Managed Grafana
- Amazon Managed Service for Prometheus
- AWS マネジメントコンソール
- AWS Organizations
- AWS Proton
- AWS Service Catalog
- AWS Systems Manager
- AWS Trusted Advisor
- AWS Well-Architected Tool

#### メディアサービス:

- Amazon Elastic Transcoder
- Amazon Kinesis Video Streams

#### 移行と転送:

- AWS Application Discovery Service
- AWS Application Migration Service
- AWS Database Migration Service (AWS DMS)
- AWS DataSync
- AWS Migration Hub
- AWS Snow ファミリー
- AWS Transfer Family

#### ネットワークとコンテンツ配信:

- AWS Client VPN
- Amazon CloudFront
- AWS Direct Connect
- Elastic Load Balancing (ELB)
- AWS Global Accelerator
- AWS PrivateLink
- Amazon Route 53
- AWS Site-to-Site VPN
- AWS Transit Gateway
- Amazon VPC

#### セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス:

- AWS Artifact
- AWS Audit Manager
- AWS Certificate Manager (ACM)
- AWS CloudHSM
- Amazon Cognito
- Amazon Detective
- AWS Directory Service
- AWS Firewall Manager
- Amazon GuardDuty
- AWS IAM Identity Center (AWS Single Sign-On)
- AWS Identity and Access Management (IAM)
- Amazon Inspector
- AWS Key Management Service (AWS KMS)
- Amazon Macie
- AWS Network Firewall
- AWS Resource Access Manager (AWS RAM)
- AWS Secrets Manager
- AWS Security Hub
- AWS Shield
- AWS WAF

サーバーレス:

- AWS AppSync
- AWS Fargate
- AWS Lambda

ストレージ:

- AWS Backup
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS)
- Amazon FSx (すべてのタイプに対応)
- Amazon S3
- Amazon S3 Glacier
- AWS Storage Gateway

### 範囲外の **AWS** のサービスと機能

以下に、試験対象外の **AWS** のサービスと機能のリストを示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、また、変更される場合があります。試験の対象となる職務内容に完全に関係のない **AWS** のサービスは、このリストから除外されています。

分析:

- Amazon CloudSearch

アプリケーション統合:

- Amazon Managed Workflows for Apache Airflow (Amazon MWAA)

AR およびバーチャルリアリティ:

- Amazon Sumerian

ブロックチェーン:

- Amazon Managed Blockchain

コンピューティング:

- Amazon Lightsail

#### データベース:

- Amazon RDS on VMware

#### デベロッパーツール:

- AWS Cloud9
- AWS Cloud Development Kit (AWS CDK)
- AWS CloudShell
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeBuild
- AWS CodeCommit
- AWS CodeDeploy
- Amazon CodeGuru
- AWS CodeStar
- Amazon Corretto
- AWS Fault Injection Simulator (AWS FIS)
- AWS のツールと SDK

#### フロントエンドのウェブとモバイル:

- Amazon Location Service

#### ゲーム関連テクノロジー:

- Amazon GameLift
- Amazon Lumberyard

#### IoT:

- すべてのサービス

#### 機械学習:

- Apache MXNet on AWS
- Amazon Augmented AI (Amazon A2I)
- AWS DeepComposer
- AWS Deep Learning AMIs (DLAMI)
- AWS Deep Learning Containers
- AWS DeepLens

- AWS DeepRacer
- Amazon DevOps Guru
- Amazon Elastic Inference
- Amazon HealthLake
- AWS Inferentia
- Amazon Lookout for Equipment
- Amazon Lookout for Metrics
- Amazon Lookout for Vision
- Amazon Monitron
- AWS Panorama
- Amazon Personalize
- PyTorch on AWS
- Amazon SageMaker Data Wrangler
- Amazon SageMaker Ground Truth
- TensorFlow on AWS

#### マネジメントとガバナンス:

- AWS Chatbot
- AWS コンソールモバイルアプリケーション
- AWS Distro for OpenTelemetry
- AWS OpsWorks

#### メディアサービス:

- AWS Elemental アプライアンスとソフトウェア
- AWS Elemental MediaConnect
- AWS Elemental MediaConvert
- AWS Elemental MediaLive
- AWS Elemental MediaPackage
- AWS Elemental MediaStore
- AWS Elemental MediaTailor
- Amazon Interactive Video Service (Amazon IVS)

#### 移行と転送:

- Migration Evaluator

ネットワークとコンテンツ配信:

- AWS App Mesh
- AWS Cloud Map

量子テクノロジー:

- Amazon Braket

ロボティクス:

- AWS RoboMaker

人工衛星:

- AWS Ground Station

アンケート

この試験ガイドはどの程度役に立ちましたか？ [アンケートに答えて](#)お知らせください。